

IV 各地区の基本方向

本市は、国道36号や国道274号、道道江別恵庭線や羊ヶ丘通等の広域幹線道路、道央自動車道、JR千歳線の沿線などの交通の利便性の高い地域に、国有林を取り囲む形で市街地が形成されています。これらの市街地を中心とした、東部地区、西部地区、大曲地区、西の里地区、北広島団地地区、それぞれの地区がもつ特性や機能を考慮しながら計画的なまちづくりを進めていきます。

- ① 東部地区
- ② 西部地区
- ③ 大曲地区
- ④ 西の里地区
- ⑤ 北広島団地地区

① 東 部 地 区

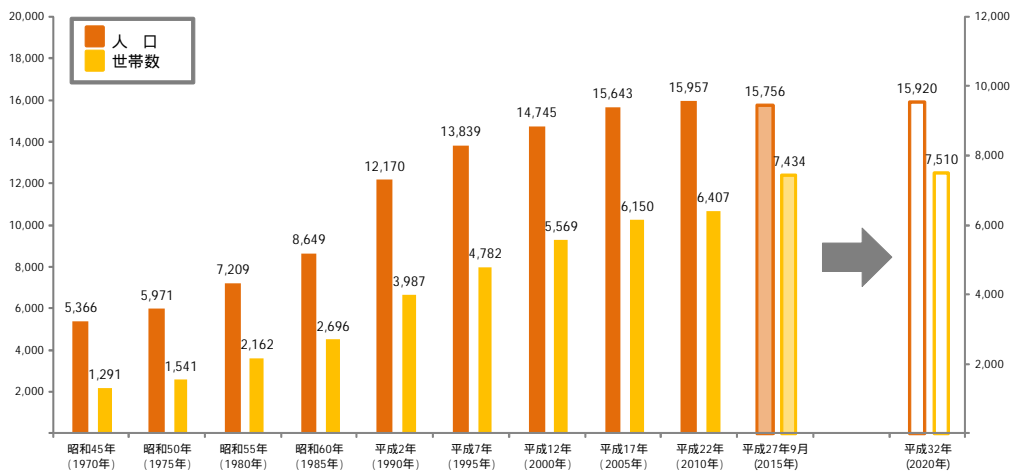
【地区の概要】

■ 地 勢

東部地区は、明治17年(1884年)、一村形成の志を抱いた和田郁次郎ら広島県人の集団入植によって開拓が始まった本市発祥の地です。以降、JR千歳線や道道江別恵庭線が整備され、高校、大学、芸術文化ホール、図書館等の文教施設、市役所等の公共機関、金融機関、商業施設などが集積する市の中心的な地区として発展してきました。

市街地の近くには国有林をはじめとする豊かな森林が広がっており、自然景観や眺望に恵まれた場所に宿泊施設や温泉施設が立地しているほか、市街地内には輪厚川が流れており、親水空間化されています。

■ 人 口 ・ 世 帯 数



【地区の基本方向】

- 広域的で多彩な交流や賑わいが生まれ、本市の活性化の中心的役割を果たすように、JR北広島駅周辺への商業・業務施設の誘導をはじめ、エルフィンパークや文化施設を活用した賑わいの創出、諸機能の充実などを図ります。
- 市内や市外の住民同士が自然や文化、スポーツ、レクリエーションなどの活動を通して活発に交流できるよう、利用しやすい図書館環境づくり、芸術文化ホールの活用による芸術文化に親しむ環境づくり、総合体育館や自転車道などを活用した広域交流拠点の形成を図ります。
- 東の里遊水地の具体的な利活用計画の策定、緑化センターの整備検討、運動広場の整備、市営住宅北の台団地と共栄第2団地の建替えなどを進めます。

② 西部地区

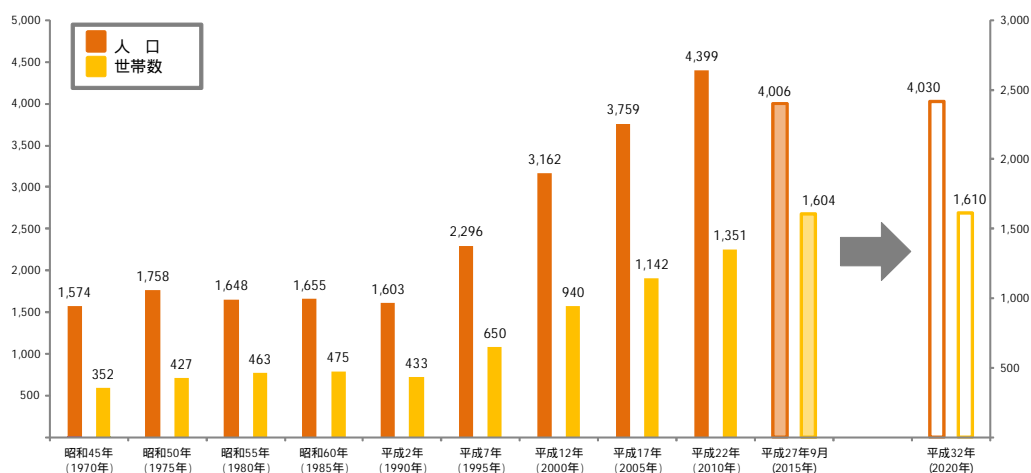
【地区の概要】

■ 地勢

西部地区は、明治6年(1873年)に開通した札幌本道(現在の国道36号)の沿道に集落が形成され、昭和後期からは民間の宅地開発などにより住宅地の整備が進み、人口が増加しました。この地区は、明治初期からの開拓の歴史をもつ地区であり、中山久蔵による稲作の成功を讃えた寒地稲作発祥の地の碑や旧島松駅通所やクラーク記念碑など北海道の開拓史上、重要な史跡が保存されています。

地区を南北に道央自動車道、国道36号が通っており、北側では羊ヶ丘通の整備が進んでいます。また、広域幹線道路の沿道という交通の利便性を生かし、輪厚工業団地が造成され、多くの企業の立地が促進されています。

■ 人口・世帯数



【地区の基本方向】

- 旧島松駅通所やクラーク記念碑、寒地稲作発祥の地の碑など歴史・文化財の保存と継承、河川整備などの治山・治水対策の推進、市有林の整備地域の拡大、豊かな自然を生かしたレクリエーション空間の創出などにより、人が訪れる地区の形成を図ります。
- 都市機能の向上を図るため、計画的な土地利用を促進するとともに、広域幹線道路である羊ヶ丘通の整備促進を図り、輪厚スマートインターチェンジの24時間化や周辺の土地利用の検討を進めます。
- 札幌都市圏に位置する地理的優位性を生かし、輪厚工業団地の企業誘致を推進します。

③ 大曲地区

【地区の概要】

■ 地勢

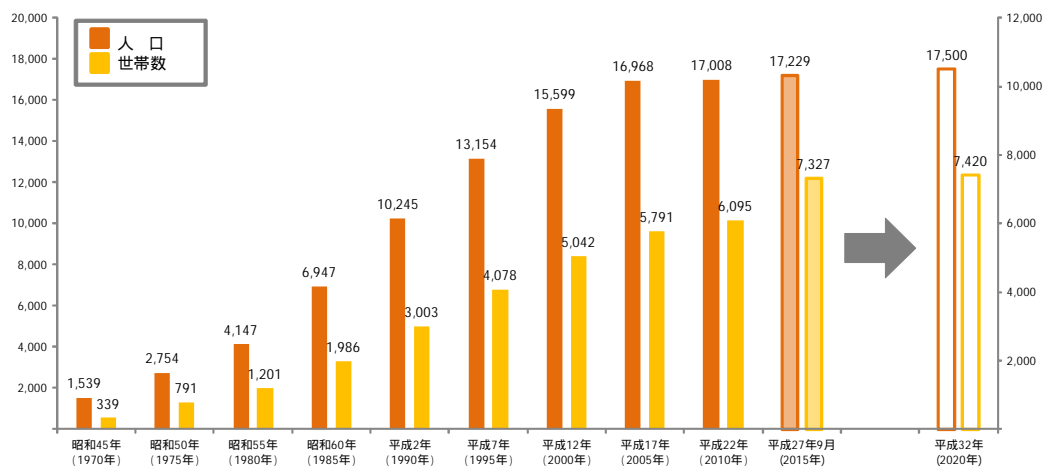
大曲地区は、明治6年(1873年)に札幌本道(現在の国道36号)が開通し、現在の国道36号と道道栗山北広島線の交差点付近に集落が形成されました。昭和40年代から民間の宅地開発などにより人口が増加し、古くからの住宅地と新しい住宅地が混在する地区となっています。

地区内を南北に道央自動車道、国道36号、羊ヶ丘通などの広域幹線道路が通り、札幌市や新千歳空港などを結ぶ交通の要衝となっています。

昭和39年(1964年)に企業立地が始まった大曲工業団地をはじめ、昭和61年(1986年)に大曲新工業団地、平成3年度(1991年度)に大曲第3工業団地の立地が始まり、恵まれた立地条件を生かし、現在約170社の企業が立地し操業しています。

近年、大型ショッピングモールなどの進出により、新たな商圈が形成されています。

■ 人口・世帯数



【地区の基本方向】

- 市街地周辺の緑を保全しながら、良好な市街地環境の形成をめざす計画的な土地利用を促進し、生活道路等の再整備、市民農園・直売所・観光農園等によるグリーンツーリズム^{※1}の促進、だれもが安心して利用できる都市基盤整備の充実を図ります。
- 広域幹線道路である国道36号の沿道において、商業・業務施設や軽工業・流通業務施設を誘致し、活気のある沿道環境の形成を図ります。
- 保育園や学童クラブの充実、住民集会所の施設整備など利用者のニーズを踏まえた計画的な整備を推進します。

④ 西の里地区

【地区の概要】

■ 地勢

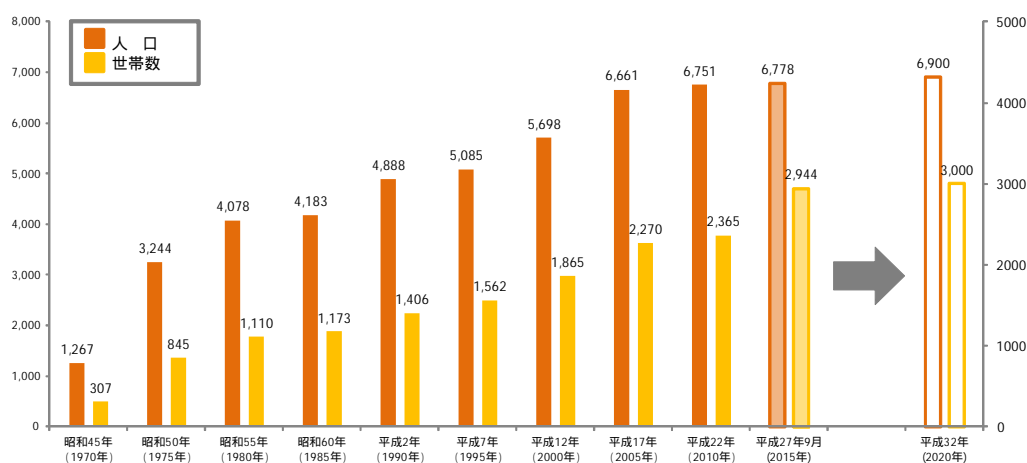
西の里地区は、明治28年(1895年)頃からの入植により集落が形成されてきました。昭和45年(1970年)からの西の里団地の造成を契機に計画的に住宅地が形成され、平成8年(1996年)には土地区画整理事業による住宅地ができ、人口が増加してきました。

地区の南側には、江別市側から連なる天然記念物である野幌原始林を含む国有林が広がるなど、豊かな自然に囲まれた地区となっています。

国道274号沿いは、コンビニエンスストアなどの沿道型サービス施設が立地しています。また、通勤・通学等のためJR上野幌駅の利用者が増えています。

この地区には特別養護老人ホームや児童養護施設など社会福祉施設が集中しています。このため、地域でともに支えあい生活するためのさまざまな事業やボランティア活動が展開され、福祉やノーマライゼーション※2のモデル的な地区となっています。

■ 人口・世帯数



【地区の基本方向】

- 計画的な土地利用や既存住宅地の整備を促進するとともに、住民の利便性向上のため、商業・業務機能の充実を図ります。
- 各種の社会福祉施設が立地しているノーマライゼーション※2の地区として、ともに支えあう地域づくり、人にやさしいまちづくりを積極的に進めます。
- JR上野幌駅周辺や国道274号の沿道については、交通の利便性などを生かし、商業・業務施設等の立地を図るとともに、駅周辺の一体的なバリアフリー化に向けた関係機関との協議を進めます。

※1 グリーンツーリズム：農山漁村地域などにおいて、農林漁業体験や地域の自然や文化にふれ、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

※2 ノーマライゼーション：障がいの有無にかかわらず、すべての人が地域社会の中で生活をともにするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。それに向けた運動や施策なども含む。

⑤ 北 広 島 団 地 地 区

【地区の概要】

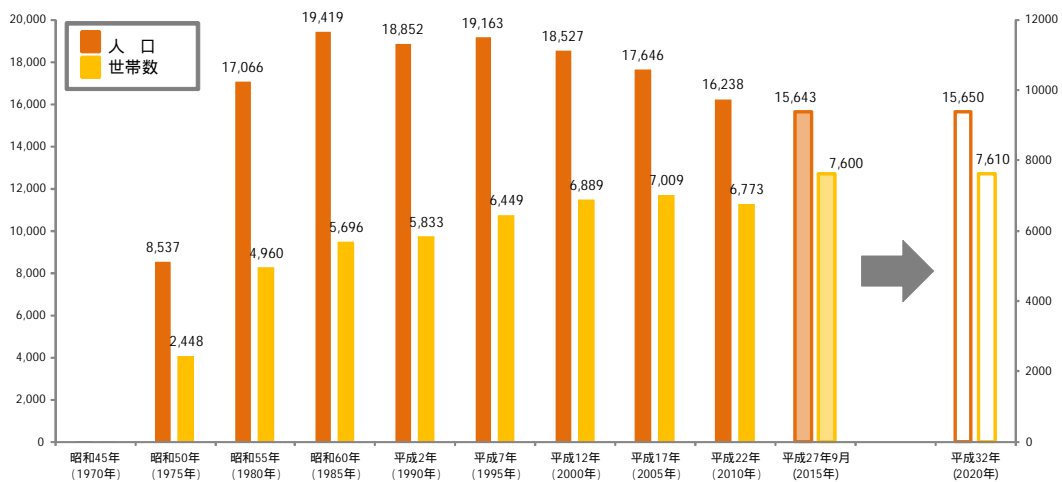
■ 地勢

北広島団地地区は、北海道営の住宅団地として昭和45年(1970年)に着工され、緑が豊かでゆとりある住環境を備えた住宅団地として成長してきました。

しかし、近年の少子高齢化の進展に伴い、住民の年齢構成が偏るなど、人口減少と高齢化が急速に進行しています。

地区内には総合公園や近隣公園、歩行者・自転車専用道路(トリムコース)などが整備されており、レクリエーションの環境が充実しています。

■ 人口・世帯数



【地区の基本方向】

- 多様な世代がいきいきと暮らしていけるよう、気軽に交流できる憩いの場や賑わいの創出を図ります。また、JR北広島駅周辺のエルフィンパークや商業業務施設などを活用した賑わいを創出し、市全体の中心としてまちの顔にふさわしい土地利用の推進を図ります。
- 豊かな自然環境、良好な住環境、利便性の高い交通など北広島団地の良さを高め、さまざまな世代のニーズに対応した魅力ある地区をめざすため、子育て世代の定住に向けた取組や空き家対策、用途地域の見直しなどを進めます。
- まちの担い手として新しい住民に移り住んでもらうため、次世代の人々が住んでみたい、住みたいと魅力を感じることができる地域づくりをめざし、リフォーム相談や住替え相談の充実、積極的なPRなどを進めます。